



2022年12月22日

「MAZDA MX-30 Self-empowerment Driving Vehicle」が 第57回機械振興賞「経済産業大臣賞」を受賞

マツダ株式会社(以下、マツダ)の手動運転装置付き「MAZDA MX-30 Self-empowerment Driving Vehicle (セルフ エンパワーメント ドライビング ビークル)」(以下、MX-30 SeDV)が、第57回機械振興賞(主催:一般財団法人機械振興協会)の「経済産業大臣賞」を受賞しました。

「機械振興賞」は、機械工業にかかわる優秀な研究開発およびその成果の実用化によって、機械工業技術の進歩・発展に著しく寄与したと認められる業績に対して授与されるものであり、その中で「経済産業大臣賞」は最高位の賞となります。表彰式は2023年2月21日(火)に行われる予定です。



「MAZDA MX-30 Self-empowerment Driving Vehicle (SeDV)」

MX-30 SeDVは、「わたらしく生きる。誰もが好きな時に好きなところへ。自分の意志で行動する、移動する、イキイキと人生を楽しむ」をコンセプトに開発した手動運転装置付車です。2022年1月の発売に合わせて、専用のオンライン商談窓口*1を設置。専門知識を備えたスタッフが、お客さまのお身体の状態に合わせた装備を提案させていただき、お客さまの購入検討をサポートしています。

足の不自由な方が運転する場合、ハンドル操作の他にアクセルとブレーキ操作を手で行う必要があります。これまでの自操車*2では、常に両手を用いることを強いられ、長時間の運転に課題がありました。また、追加装着となる運転や乗降の補助装置が運転席の空間を狭め、補助装置の不要な方が運転する際の妨げになることもありました。

MX-30 SeDVの開発では、ベース車の開発と連携して補助装置の設計を進め、生産体制を工夫することにより、運転席の空間を確保しながら乗降性を高め、価格も抑えることができました。また、リング式アクセル*3を採用することによりアクセルの操作性を高めて、速度維持が容易になり、コーナリング時でも安定した速度で運転できます。さらに、手動/通常運転機能を電子制御で切り替えを容易にして、足の不自由な方がご友人やご家族と共に1台の車で一緒にドライブを楽しめるようにしたことが高く評価されました。

受賞対象： 「みんなが走る喜びを共有できる新コンセプト自操車の開発」
開発担当者： 栃岡 孝宏 マツダ株式会社
 井上 政雄 マツダ株式会社
 田内 一志 マツダ株式会社
 前堂 勝久 株式会社マツダ E&T
 山本 友也 株式会社マツダ E&T
 佐々木 剛史 株式会社マツダ E&T
 殿原 恭幸 株式会社マツダ E&T

マツダは、今後も心豊かな人・社会の実現を使命と捉え、クルマの持つ価値により、人の心を元気にすることを追求し続けていきます。

*1 「MAZDA MX-30」に搭載する、各装備（アクセルリング、レバーブレーキ、ブレーキサポートボード、移乗ボード）は、ワンパッケージで装備・販売するものであり、装備ごとの販売はできません。

お客さまのご要望に合わせて、個別にオプション装備のご案内をさせていただきます。個別装備については、別途、費用がかかります。詳細については、販売店または、オンライン商談の中でお問合せください。

<MAZDA MX-30 Self-empowerment Driving Vehicle オンライン商品説明・ご商談 web サイト>

<https://www.mazda.co.jp/cars/mx-30/grade/sedv/online-meeting/>

*2 体の不自由な方が自ら運転されるために、運転補助装置を取り付けた車両。

*3 アクセルリング（直感コントロール機能付き）など、MX-30 SeDV の機能の詳細については下記 Web サイトをご参照ください。

<MAZDA MX-30 Self-empowerment Driving Vehicle web サイト>

<https://www.mazda.co.jp/cars/mx-30/grade/sedv/>

■ご参考

一般財団法人機械振興協会 web サイト

<http://www.jspmi.or.jp/>